

# えがお

第19号

令和2年2月1日発行

- 発行/一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団
- 住所/〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1-18
- 電話/078-743-8200
- FAX/078-743-8211
- ホームページ/http://www.kzc.jp/

## ～限りなく 人にやさしい「保健」と「医療」と「福祉」を～

一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団は、神戸市医師会、こうべ市民福祉振興協会、神戸市の三者が設立しました。医療・看護・介護・リハビリまでトータルにサポートするほか、地域包括ケアシステムの構築をめざし、在宅医療と介護の連携を推進しています。

### ACP(人生会議)講演会を開催しました



令和元年11月16日、ANAクラウンプラザホテル神戸において「ACP講演会」を開催しました。

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部長 三浦久幸氏をお招きし、「地域包括ケアにおけるアドバンス・ケア・プランニング」について講演いただき、医師、看護師、民生委員など医療・介護従事者を中心に約200の方が参加されました。

アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning :ACP)は、将来の医療に関して個人の価値観

や人生のゴールを理解し共有することで、全ての成人や健康ステージを支えるプロセスを言います。重篤な慢性疾患に罹患したときには、その人の価値観、目標に合致した医療が受けられるようにサポートすることや自分で意思決定できない状況になった時は、代わりに意思決定してくれる信頼できる人を選び、準備することも含まれます。

講演の中で、特に大事な点として、自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、将来もっと病状が進んだ時、どんな医療やケアを受けたいか考えたり、どこでどのような医療やケアを望むか自身自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが大切であるとの話がありました。

参加者からは、「元気な今から最終段階に向けて話し合いをしていこうと思う」、「近所の方や見守り対象者の方など、普段から何でも話し合える仲になっておくことが必要だとわかった」などの意見が寄せられました。

今後、ACPの考え方が普及していくことが求められているところです。

### 訪問看護シンポジウム「訪問看護の将来を考える」を開催いたします!

地域包括ケアシステムの実現に向けて重要な役割を担う訪問看護師が、退院支援を行う病院や、在宅生活を支えるケアマネジャー・介護職等の関連職種と協働して在宅療養生活を支援していくための課題と人材育成について考えます。みなさんの参加をお待ちしています。

**日時** 令和2年2月29日(土) 14:00~16:30

**場所** 兵庫県立のじぎく会館

**内容** 【第一部】基調講演

「訪問看護ステーション これまでとこれからの20年 ~安心して暮らせるまちづくりのために~」

- 山崎和代 氏 兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会副会長 (西宮市社会福祉事業団 訪問看護課 課長)

**内容** 【第二部】シンポジウム

「訪問看護師を育てる地域連携」

- 座長 片倉直子 氏 神戸市看護大学 看護学部 教授
- 井上久美子 氏 東神戸訪問看護ステーションあじさい 所長
- 奥河典子 氏 愛のき訪問看護ステーション 管理者
- 乾 清代美 氏 適寿リハビリテーション病院 看護部長 (神戸市民間病院協会)
- 濱野聖二 氏 はまの医院 院長(神戸市医師会)

# 神戸リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション専門病院として、一人でも多くの患者さんが自立し、住み慣れた地域や自宅に帰って心豊かな生活が送れるよう、医師・看護師・セラピスト・介護職・医療ソーシャルワーカー等のチーム医療により、在宅復帰を目指しています。

## 病棟でクリスマス会を開催しました☆



第2病棟では、令和元年12月23日に開催し、スタッフによるハンドベル・楽器演奏・バルーンアートを行い、患者さんにも参加していただきました。

第3病棟では、12月19日に開催し、看護師、介護士、セラピストによるシングルベルダンスや Copp Dance を披露しました。

第4病棟では、12月20日に開催し、「上を向いて歩こう」のせてフラダンスをしたり、スタッフによるダンスチームを結成し、クリスマスソングでダンスをしました。

入院されている患者さんからは、「楽しい時間を過ごせた」

「色々な工夫をしていただけて感謝している」「このような行事を頻繁に開催してほしい」など好評をいただきました。

また、各病棟では月に1回ボランティアの方による「フルート演奏会」を開催しています。

【2月の予定】

5日、12日、19日の水曜日に開催  
12:20より約20分間

【曲目】 なごり雪・お楽しみ・  
春よ来い(童謡)



## 医療安全勉強会を開催しました

医療安全の意識を高め、インシデント件数を削減することなどを目的として、令和元年11月8日に西広島リハビリテーション病院 看護介護部長 杉本真理子氏、リハビリマネジャー 福江亮氏を招き、「みんなで取り組む医療安全」をテーマに勉強会を行いました。講師の方からは、転倒・離院予防対策の実例、同職種・多職種間の情報共有方法と安全対策、安全対策に対するリハビリマネジャーの役割などについて話があり、特に以下のことを強調されていました。

●安全対策は、全職員の誰が見ても一目でわかる必要がある。そのため、車椅子にマーキングを行い、黄マークは移動、移乗時にFIM(どれくらい他の人や道具に頼らないで、日常生活を行うことができるかを評価する方法)5以下であるが介助者を呼ばずに行動する場合、赤マークは必ず落ちる可能性が高い場合としている。

●患者安全委員会では転倒ラウンドとベッドサイドラウンドを行っており、転倒ラウンドは、重複する事例、骨折に至った事例、そのほか重大なリスクにつながる事例について、ベッドサイドラウンドは、月に一度ベッドサイドの環境チェックを行っている。(ラウンドとは見回りを意味しています)

●安全文化は病院全体の文化そのものである。安全は「守る」ものではなく、職員全体で「創る」もの



参加者からは、「個人レベルで考えるのではなく、全体で考えられる環境にしていく必要がある」「患者さんが安全に過ごせるために、病棟スタッフだけでなくセラピストや他の職種のスタッフが関わる際もわかりやすく表示すること」などの意見が寄せられました。勉強会をふまえ、当院でも第3病棟で車椅子に赤色・黄色のテープ取り付けやベッド周辺にピクトグラムの貼付などを試験的にを行っています。

# 介護老人保健施設 リハ・神戸

心身両面で生活機能が低下し、自立生活が困難になった高齢者等の方に対して、医師・看護師・セラピスト・介護職・ケアマネジャー・管理栄養士・支援相談員等がチームとなり、相互に協力・連携を図りつつ、利用者さんに応じた適切なリハビリテーション訓練や日常生活機能等の維持・向上のための支援を行っています。入所・ショートステイ・デイケア(通所リハビリ)・訪問リハビリ(しあわせの村の近隣地域が対象)の利用形態があり、これらのサービスの提供を通して、身近な老健として利用者さんの在宅復帰・在宅療養生活を支援します。

## 新しい施設長が就任しました(令和元年10月1日)



リハ・神戸 施設長 高井 豊

このたび、老健リハ・神戸 施設長に就任いたしました高井でございます。

これまでの歴代施設長の先生方、そして殊更に、私が前任地の神戸リハビリテーション病院に入職して以来、大変お世話になりました元施設長の庄村先生、そして前施設長の浪方先生らが長きにわたり培ってこられたリハ・神戸の健全なる医療土壌と運営を引き継ぐに当たり、先輩諸氏に敬意を表しますと同時に身の引き締まる思いがいたします。

ますます進展する超高齢化社会におきましては、看護・介護・リハビリテーション医療の重要性が増大する一方で、認知症の疾病的理解や、認知症の患者さんに対する適切で十分な対応が求められるなど、当施設も一層複雑な療養環境の中に身を置くことになるでしょう。しかしながら、われら職員スタッフが引き続き一致協力し、神戸在宅医療・介護推進財団老健リハ・神戸として地域医療の一翼を担ってゆくことにより、地域社会へのより深い貢献

に寄与しようと考えております。そのためには、なにぶんみなさまの御協力が必要不可欠でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 令和元年度前半の取組みの一部をご紹介します。

### 健康教室を開催しました

リハ・神戸では、地域の住民の皆様にも「老健」をもっと身近なものに感じていただくために、近隣の皆様と施設入所者・ご家族の方々を対象に「栄養と食事」「口の体操」「健康チェック」をテーマとした健康教室を施設1階のデイルームで開催しました(10月27日)。講師は当施設の理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士が務め、短い時間でしたが、合計30名の皆様のご参加をいただきました。当施設として初めての試みでしたが、微力でも地域貢献に繋がる活動を進めることは「老健」の重要な役割の一つと考えています。今後とも積極的に取り組んでまいります。



▲健康教室開催の様子(フレイルチェックのお話をしているところです)

### 恒例の夏祭り! 楽しんでいただきました



わっしょい! わっしょい!

### デイの工作でぶどうを作りました



よく実りました!

イベント食を紹介します♪ 令和元年度のテーマは 日本全国癒しの旅 一温泉地で味わえる郷土料理



▲玉造



▲登別

# 認知症対策課(こうべオレンジチーム・こうべオレンジダイヤル)

## ☆こうべオレンジチーム(認知症初期集中支援チーム)

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、保健師・看護師・社会福祉士等がコーディネーター兼チーム員として、ご本人・ご家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援を行っています。

### 対象となる方

**40歳以上の  
在宅生活者**

医療・介護サービスを受けていない方・中断されている方。医療・介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なため、ご家族等が対応に苦慮している方など

## ☆こうべオレンジダイヤル(認知症に関する総合電話相談窓口)

神戸市からの委託を受け、財団では市民の皆様が気軽に認知症について相談いただけるよう、平成31年4月1日から認知症に関する総合電話相談窓口として「こうべオレンジダイヤル」を開設しています。

TEL **078-262-1717**

受付時間 月～金(土日祝、年末年始除く) 9:00～17:00

在宅での認知症支援について経験のある看護師・社会福祉士の専門職が電話受付をしています。神戸市内の幅広い介護情報等の提供や、必要に応じて適切な機関への紹介・希望に応じた関係機関への取次ぎを行います。

### こんな時は一人で悩まず、ご相談ください!!

- 介護が大変!!話を聞いてほしい・・・
- 認知症の方にどのように対応したらいいか悩んでいる・・・
- 家族の物忘れがひどくなった気がする・・・
- 神戸モデルなど神戸市の認知症施策を知りたい・・・
- 認知症の方の免許返納について、相談したい

※プライバシーは保護されます。匿名での電話も可能です。

※相談料は無料です。(ただし、通話料は相談者負担となります。)

※こうべオレンジダイヤルは電話相談の窓口です。来所・訪問対応は行っておりません。



# 訪問看護・えがおの窓口・あんしんすこやかセンター

ご家庭で寝たきりの方や看護・リハビリテーションが必要な方を対象に、看護師やセラピストが定期的に訪問し、予防看護も含めた各種サービスを行っています。高齢者や介護の必要な方が身近にある医療・保健・福祉サービスを受けられるよう、各種相談に応じる「あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)」、介護保険上の各種サービスが受けられるよう、利用者の依頼に基づき諸手続き、相談に応じる「えがおの窓口(居宅介護支援事業)」を運営しています。

令和元年度合同実践発表会を行います。今回は「認知症」がテーマです。

吉本興業で芸人として活躍されたのち、母の介護をする傍ら、介護業界に転身した中村学氏による基調講演と、認知症家族会またスタッフによる発表をおこないます。

医療福祉関係機関の方で参加をご希望の方は、各センターへお問合せください。締切は2月14日(金)です。

**日時** 令和2年2月22日(土) 13:30～16:00

**場所** 神戸市医師会館

**講演** 認知症とともに生きる

**内容** 1部 基調講演

笑門介護 中村学事務所 代表 中村学氏

2部 実践発表 4題

神戸リハビリテーション病院	☎078-743-8200
介護老人保健施設 リハ・神戸	☎078-743-8500
しあわせの村在宅支援センター	☎078-743-8512
しあわせの村あんしんすこやかセンター	☎078-743-8208
しあわせ訪問看護ステーション	☎078-242-5454
東灘しあわせ訪問看護ステーションくるる	☎078-452-6772
東灘ケアプランセンター(ほくら・くるる)	☎078-452-6960
魚崎南部あんしんすこやかセンター	☎078-452-6830
兵庫しあわせ訪問看護ステーション	☎078-515-5252
兵庫しあわせケアプランセンター	☎078-577-1448
新開地あんしんすこやかセンター	☎078-577-1445
西部しあわせ訪問看護ステーション	☎078-787-7201
認知症初期集中支援事業(こうべオレンジチーム)	☎078-242-5461

